

令和3年11月15日
学校関係者評価委員会事務局

令和3年度 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取組み・改善の進め方

標記について、学内にて検討し、以下の方向で取組み及び改善を進めることを確認した。

1 学校の理念、教育目標

学校の理念、教育目標を点検継続しながら、方向性を明確に持って介護福祉士養成を継続する。

2 令和3年度の重点目標と達成計画

介護福祉士国家資格取得のため、一人ひとりの能力に応じ、個別の指導に力を入れていく。

3 評価項目別取組状況

基準1 教育理念・目的・育成人材像

特になし

基準2 学校運営

特になし

基準3 教育活動

特になし

基準4 学修成果

4－13－1 評定4【就職率の向上が図られているか】	
学校関係者評価委員会での意見・課題	意見・課題への取組み及び改善の進め方
学生全員が希望した場所に就職できているということだが、卒業生の勤続年数等の傾向について知りたい。 本科生は埼玉県の介護福祉士修学資金貸付制度を利用しての学生が多い。この制度を利用している学生は、5年間埼玉県内の福祉分野で働くことで貸付金の返済が免除になるため、その期間は同じ場所で勤める傾向が強い。委託訓練生も比較的同じ場所で働いている傾向が強い。 ある高校の先生から、高校卒業後に介護福祉士資格を取得した生徒が福祉施設に就職後2～3年で辞めてしまう人がいるとの話を聞いた。 職業訓練生として吉川福祉で学んでいた。仕事が続いている理由の一つはキャリアステージを教えていただいたことである。介護は年齢的にも体力勝負のところがあり続けていけるのか不安があったが、5年間勤めたらケアマネージャーの受験資格が取得でき、埼玉県は介護福祉士資格を取得していれば相談員もできるというような、現場のサブ的なお仕事ができるということを教えていただいた。また、就職のサポートをしていただく時に理想と現実のギャップを含め、学校でその先の話までされるといいのではないかな。	授業や個別面談等を通して常に就職を意識させている結果、毎年高い就職率を確保している。今後の課題としては就職後の定着率を上げることであり、就職先のミスマッチを防ぐ教育活動に取り組んでいく。 卒業後も卒業生、就職先との連絡を心がけて相談があった場合には個別の面談を行ったり、就職先との調整にも立ち会ったりしている。

4－14－1 評定4【資格・免許取得率の向上が図られているか】	
学校関係者評価委員会での意見・課題	意見・課題への取組み及び改善の進め方
施設では収入を得るために加算をとる必要があり、介護福祉士資格の加算は大きい。また、令和8年度卒業生まで介護福祉士国家試験に不合格だった卒業生にも、卒業後5年間は介護福祉士の有資格者として勤めてもらえることは大きい。	令和元年度より2年生は前期と後期に1コマずつ、1年生は後期に1コマを国家試験対策講座の授業として時間割の中に設け実施している。 今年度は昨年度以上に国家試験への対策を講じており、受験生全員合格を目指したい。 早めに試験日を意識させて、国試の学習が進むように取り組んでいる。

基準5 学生支援

5－16－1 評定4【就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか】	
学校関係者評価委員会での意見・課題	意見・課題への取組み及び改善の進め方
就職面談時にジョブカード作成アドバイザーが担任と二人で、後期から就職のための面談を行っている。特に就職活動をしていない学生には熱心に指導している。内定したと伝えれば何も言われなと思っている学生（委託訓練生）がおり、そういう学生は就職後すぐに辞めてしまうことがある。委託訓練生の中にそういった学生が稀にいる。 学生には、卒業後も福祉施設で長く働いてもらいたいと思っている。就職したA施設がダメだったから介護職を離れてしまうのではなく、B施設やC施設といった他の施設で働いてもらいたい。	職業訓練の意義の確認や就職することの意識づけに取り組んでいる。 介護職としてのステップアップについて折に触れ、意識づけを計っている。

基準6 教育環境

6-23-1 評定4【学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか】	
学校関係者評価委員会での意見・課題	意見・課題への取組み及び改善の進め方
昨年度もコロナ禍のなか施設実習を実施され学びを継続されているお話を聞いて、それがいかに難しいことか毎日直面している問題である。教育活動の制約がある中で施設実習を実施できたことは本当に素晴らしいと思う。同じ教育現場として、工夫されていることがあれば勉強させていただきたいと思う。 何より各施設様が、次の介護人材を育てるということで、実習生の受け入れ態勢を整えていただいたことに感謝している。 コロナのリスクは大きく学族の面会も控えているなか実習生を受け入れている。ただ、実習生を受け入れることは職員にとっても教えることの大切さに気付く職員教育にもなる。当施設ではリスクを減らすために、実習中は学生に自宅と実習先の往復のみをお願いしている。また、PCR検査の陰性を確認しながら、できる限り協力したいと思っている。 当施設としても、養成校の学生の皆さんを介護スタッフの一員だと思っているので、実習生の受け入れを断る理由はなかった。 感染予防対策を徹底しながら、実習を楽しんで実施してもらいたいという思いで実習生の受け入れをしている。	コロナ下ではあるが施設実習ができたことを自信として、感染状況を見ながら他の行事等の実施についても探っていきたい。深い学びをどのように準備するか検討していく。

職員と同じようなケアをしていけば、ある程度感染は防げるのではないかと考えている。	
--	--

基準7 学生の募集と受け入れ

7-25-2 評価4【学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか】	
学校関係者評価委員会での意見・課題	意見・課題への取組み及び改善の進め方
学生募集は高校生主体なのか。 高校生だけでなく近隣のハローワークにも募集活動を行っている。 当施設で介護福祉士修学資金貸付制度の話をしたところ、職員は知らなかった。養成校で学びたい人の中には、親御さんや親戚の方が介護職員として働いている姿を見て自分も働きたいと思っている人もいる。施設で働いている職員で中高生のお子さんをお持ちの方にアピールする方法もあるのではないか。 Y o u T u b e を拝見し、文字より映像の方がいいと感じた。写真より動画の方が学校の様子が分かりやすいので、今後取り組みを続けていきたい。	今年度の介護福祉士養成校(327校)の定員充足率は55.1%と、依然として介護福祉士養成校の募集活動は全国的に厳しい状況である(本校の今年度入学生の定員充足率は87.5%)。 本校の次年度に向けた学生募集活動は一定の効果が見込めそうであるが、来年度は今年度よりも若干厳しい状況であり、今後職業訓練生の受け入れを含め、引き続き積極的な募集活動に努めていく。

基準8 財務

特になし

基準9 法令等の順守

特になし

基準10 社会貢献・地域貢献

特になし